

Koka TIMES

— 心を磨き、技を極め、夢に挑む —



レインボーカラーズ耐久シリーズ 2025 第4戦・3時間耐久

東京ゲームショウ 2025 に出展 軽自動車耐久レース優勝

- 高校でプロジェクトマップ制作サポート ●企業から教材寄贈
- 市民が ITS 技術を体感 ●各センターからのお知らせ
- 2026年度(前期)行事予定表

編集/発行
愛知工科大学
愛知工科大学自動車短期大学
入試広報センター
〒443-0047
愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2
TEL. 0533-68-1135
URL. <https://www.aut.ac.jp/>

NEWS & TOPICS

(2025年9月～2026年3月)

東京ゲームショウ 2025 に出展

工学部・情報メディア学科は、9月25日（木）～28日（日）に開催された、世界三大ゲームショウの一つ「東京ゲームショウ 2025」に出展しました。

ブースでは、学生が企画から開発までを手がけたオリジナルゲーム作品を展示し、多くの来場者に操作体験をしていただきました。作品ごとに学生スタッフが対応し、コンセプト設計や技術的工夫、制作過程で直面した課題などを紹介しながら、来場者と活発な意見交換が行われました。

開催期間中はゲーム業界の企業関係者も多数来場され、大学のカリキュラムや実践的な教育内容について紹介する機会となりました。また、学生の発想力や開発力に対して高い評価や具体的な助言をいただき、実際の開発現場を踏まえた視点で学びを深めることができました。

情報メディア学科では、学びの過程において制作物を社会に発信し、外部の評価を受けながら学びを発展させる教育を重視しています。実践的な学びを通じて、学生の創造力と技術力の向上を図っています。

次世代自動車システム研究所
市民が体感！触れてわかる「ITS 技術」

次世代自動車システム研究所は、11月22日（土）～24日（月）にポートメッセなごやで開催された「Japan Mobility Show Nagoya 2025」と同時開催の「あいち ITS ワールド 2025」に出展しました。

本展示会は、ITS（高度道路交通システム）や自動運転技術の最前線を紹介する大規模イベントで、会期中の来場者数は延べ15万5,200人にのぼり、ITS技術を身近に体感できる場となりました。

本学ブースにも連日多くの来場者が訪れ、家族連れを中心に「ドライビングシミュレータを用いた安全運転支援の研究」や「カメラ・LiDARなど多様なセンサを活用した運転者支援技術」について、体験を通して理解を深めていただきました。

三河中央「人・モノ・地域づくり」コンソーシアム
再始動に向けたキックオフ会を開催

三河中央「人・モノ・地域づくり」コンソーシアムは、地域の行政・経済団体・教育機関が連携し、モノづくり企業の持続的成長を支える将来の人材育成を目的として2014年に設立されました。

コロナ禍の影響で活動を一時休止していましたが、このたび再始動に向けたキックオフ会を開催しました。

キックオフ会には、蒲郡市役所、蒲郡商工会議所、幸田町役場、幸田町商工会の関係者および本学関係者が出席し、今後のコンソーシアム運営方針について意見交換を行いました。あわせて、次年度に向けた再始動計画の骨子が提案され、今後の取り組みに向けた方向性が共有されました。

コンソーシアムでは、地域と産業の実情を踏まえた人材育成の取組を本格的に進めていきます。

プロジェクションマッピングで受験生を応援

12月15日（月）、蒲郡東高等学校生徒会と工学部・情報メディア学科の加藤研究室が連携し、同校の校舎壁面を活用したプロジェクションマッピングを実施しました。

本企画では、高校3年生に向けて1・2年生からの受験応援メッセージを映像として投影したほか、12月の時期にあわせたクリスマス为主题とした映像演出も行いました。

当日は寒さの厳しいなかでしたが、多くの生徒に楽しんでいただきました。

企画実施にあたり、ご協力いただいた蒲郡東高等学校生徒会をはじめ、生徒のみなさんに心より感謝申し上げます。



数学的思考をモノづくりにつなぐ高大連携講座

10月24日（金）および31日（金）の2日間、幸田高等学校にて、高大連携講座「数学を活用したLEGO ロボットプログラミング」を実施しました。

本講座には同校総合コース・企業連携コースの生徒18名が参加し、モノづくり人材に求められるスキルや、数学的知識を実社会でどのように活かすかについて理解を深めました。

実習ではLEGO Education SPIKEを用い、数学的思考にもとづくロボット制御や試行錯誤を重ねるPDCAサイクルを通して課題解決に取り組み、生徒の積極的な姿勢が引き出され、主体的な学びにつながる活気ある授業となりました。



セブ島語学研修で得た学びを学内で発表

本学が企画したセブ島（フィリピン）語学研修に、工学部・情報メディア学科3年の鈴木日佑芽さんが参加しました。研修期間は8月9日（土）～9月6日（土）までの4週間で、現地のQQEnglish語学学校にて英会話レッスンを受講しました。

研修は全20日間にわたり、1日6コマ（マンツーマン4コマ、グループレッスン2コマ）の英語授業を実施。実践的な英会話力を高めるプログラムとなっており、授業のない日には現地文化を体験するオプションツアーにも参加しました。鈴木さんからは「英会話力が確実に向上しただけでなく、世界各国から集まった留学生との交流を通して多様な文化に触れることができ、非常に有意義な経験だった」との感想が寄せられました。



帰国後、鈴木さんは情報メディア学科1年生の英語の授業にて「留学体験プレゼンテーション」を行い、研修中の学びや現地での生活について具体的に紹介しました。プレゼンテーションでは、英語力の伸びや授業の様子、週末の過ごし方など、留学を検討する学生にとって関心の高い内容が語られました。質疑応答では、「現地での生活は大変だったか」「帰国後の就職活動にどのように活かされたか」といった質問が相次ぎ、教室は大いに盛り上がりました。

本学では、今後も学生の語学力向上と国際感覚を養う機会として、海外研修プログラムの充実に取り組んでまいります。

情報メディア学科宮川さんが優秀発表賞

工学部・情報メディア学科の宮川起世隆さんが、12月13日（土）に近隣私立大学で開催された「東海地区音声関連研究室卒論（中間）発表会」で優秀発表賞を受賞しました。

宮川さんの研究は、歩きスマホやイヤホン使用時に車接近に気づきにくい歩行者の事故リスクに着目し、人工知能「Transformer」で車接近音を検出して事故防止に役立てる技術で、その成果と社会的意義が高く評価されました。

GAMA HALLOWEEN 2025 で科学の楽しさを発信

10月18日（土）、「GAMA HALLOWEEN 2025」に本学ブースを出展しました。ロボット操作やおもちゃ体験で科学の楽しさを伝え、学生が映画泥棒に扮して盛り上げるなど、多くの市民と交流し、地域とのつながりを深めました。



社会課題と向き合う -資格障害を支える技術と社会-

企業連携教育の一環として、工学部「社会学」の授業で株式会社ニデックの山崎裕司様による特別講義「視覚障害を支える技術と社会」を実施しました。

講義では、視覚障害者を取り巻く社会的背景や課題、視覚補助技術について解説され、技術が生活や社会参加に与える影響、技術者としての社会的役割が示されました。

講義後にはレポート課題が出され、学生が内容を振り返りながら自らの考えを深める機会となりました。学生からは、視覚障害への理解が深まり、社会全体で支える重要性を実感したとの声が寄せられました。

企業から学ぶ「クルマづくりと品質保証」

11月18日（火）、工学部3年生を対象に特別講義を実施しました。

講師として、スズキ株式会社 品質保証本部 四輪品質調査部主幹の柴田道夫様をお迎えし、「クルマづくりと品質保証 ～企業が求める人材～」をテーマにご講演いただきました。

講義では、製品が市場で使用される段階における品質を支える企業内のしくみや具体的な取組みに加え、企業が人材に求める姿勢や能力について、実体験を交えたお話がありました。

学生は、普段触れる機会の少ない市場品質保証の現場に関する実践的な内容に、熱心に耳を傾けていました。

国際会議 AEPSE2025 で近藤教授が講演

工学部・機械システム工学科の近藤敏彰教授が、11月2日（日）～6日（木）にタイ・プーケットで開催された国際会議「AEPSE 2025」で講演を行いました。

本会議はプラズマ表面工学の国際会議であり、近藤教授は「Anodization and Anodic Processes」セッションに登壇し、単結晶ガリウムの陽極酸化挙動に関する研究成果を紹介しました。

DaVinci Resolve 公認の映像制作教育を本格始動

工学部・情報メディア学科が、Blackmagic Design社の「DaVinci Resolve アカデミックパートナープログラム」に認定されました。本認定により、DaVinci Resolveを活用した専門的かつ実践的な映像制作教育を実施します。

DaVinci Resolveは、映像編集、VFX、カラーグレーディング、音声制作を統合したソフトで、ハリウッド映画やNHKでも採用されています。

耐久レース参戦 K-ST クラス優勝

レインボーカラーズ耐久シリーズ2025第4戦・3時間耐久が9月21日（日）、スバ西浦モーターパーク（愛知県蒲郡市）で開催されました。

本大会には、昨年の耐久レース経験者4名とサーキット走行未経験者5名を含むドライバー構成で、K-ST（学生対抗選手権）クラス [カーナンバー13]、K-NN（ノーマル）クラス [カーナンバー12] の計2台が出場しました。

レースは、GT（乗用車）5台、K（軽自動車）22台の計27台による混走で行われ、K-STクラスには近畿大学も参戦するなど、緊張感の高い耐久レースとなりました。

学生自らが戦略立案、ドライバー交代、ピット作業、情報共有を担い、その結果、K-STクラス優勝、K-NNクラス4位入賞を果たしました。

耐久レースを通じて、学生一人ひとりが役割と責任を意識し、チームとして判断・行動する力を養うことができました。

また、大会当日には多くのOBが応援に駆けつけ、学生主体の挑戦を支えてくれました。



国内自動車メーカー12社による講演会開催

9月16日（火）～18日（木）の3日間、短期大学1年生を対象に「自動車メーカー講演会」を実施しました。

国内自動車メーカー各社の担当者をお招きし、クルマづくりにおける想いや最新技術、環境問題への取り組み、企業風土などについて講演していただきました。

学生たちは、普段の授業では触れることの少ない各メーカーの開発思想や社会的責任について直接話を聞くことで、自動車業界の現状と将来像を具体的にとらえる機会となりました。

講演後には「環境問題や技術革新に真剣に向きあう姿勢に刺激を受けた」「メーカーごとの環境への考え方の違いを知ることができた」「自分の将来や進路について深く考えるきっかけになった」といった声が聞かれました。



参加自動車メーカー

日野自動車株式会社	スズキ株式会社
三菱ふそうトラック・バス株式会社	株式会社SUBARU
本田技研工業株式会社	いすゞ自動車株式会社
マツダ株式会社	日産自動車株式会社
三菱自動車工業株式会社	ダイハツ工業株式会社
UDトラック株式会社	トヨタ自動車株式会社

実践的整備教育を支える教材寄贈

12月24日（水）、短期大学・学生の整備技術向上を目的として、愛知ダイハツ株式会社および静岡ダイハツ販売株式会社より教材用自動車部品の寄贈を受け、本学自動車棟において寄贈式が行われました。

寄贈された教材は、ハイゼットトラック用パーシャルエンジンやマニュアルトランスミッションなどです。

寄贈式には、愛知ダイハツ株式会社 代表取締役社長 坪内孝暁様、静岡ダイハツ販売株式会社 代表取締役社長 井上和宏様をはじめ、関係者が出席され、大西正敏学長より感謝状が贈呈されました。



「先輩社員との座談会」を開催

毎年、短期大学1年生の進路研究を目的として「先輩社員との座談会」を開催しており、本年度は12月4日（木）に実施しました。座談会では、入社後の仕事内容や仕事のやりがい・厳しさ、将来のキャリア設計などについて、卒業生から具体的な経験談を交えて話をしていただきました。

当日は、愛知日野自動車株式会社、NTP名古屋トヨペット株式会社、キリックスリース株式会社、株式会社スズキ自販中部、東海マツダ販売株式会社、豊橋ヤナセ株式会社より、入社2年目の若手社員から15年以上のキャリアを持つベテラン社員まで、幅広い卒業生にご参加いただき、学生へ実践的な助言と激励の言葉をいただきました。

学生からは、「現在の会社を選んだ理由」「学生時代に最も力を入れたこと」「在学中に学んでおくべき科目」などの質問が相次ぎ、将来の進路を具体的に考える機会となりました。

地震想定による避難訓練を実施

10月10日（金）、大学・短期大学合同で、東三河地区を震源とする震度5強の地震を想定した避難訓練を実施しました。学生・教職員が参加し、避難誘導や安否確認の手順を確認。あわせて、学生寮入居者を対象に水消火器による消火訓練を行い、防災意識の向上を図りました。



INFORMATION

学務課

一奨学金制度のご案内ー

本学では、次の奨学金制度を取りあつかっています。希望される方は、学務課までお気軽にご相談ください。

なお、4月のオリエンテーション期間中に説明会を実施します。希望する学生は必ず参加してください。

■授業料免除制度

【申請受付 前期：4月上旬、後期：9月中旬～10月上旬】

次のいずれかの要件や別に定める家計基準を満たし審査により認められた場合、その期の授業料の半額または全額を免除します。

- ①原則として日本学生支援機構等の奨学金を受給していない学生で、経済的理由により、授業料の納付が困難で、成績が良好な者。
- ②授業料等を主として負担している者が死亡や疾病により入院し、授業料の納付が困難な者。
- ③学生もしくは学費負担者が、地震または風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難な者。

■日本学生支援機構奨学金制度

【申請受付 4月上旬、9月上旬】

日本学生支援機構の推薦基準（学力・家計）により選考され、月額2～15万円の設定金額（条件により範囲は異なる）から選択した金額の貸与を受けることができます。貸与された奨学金は、卒業後に所定の方法で返済することになります。

事務局

■体育館1階回廊部のテーブルとイスを追加

天気の良い日には昼食時を中心に多くの学生でにぎわう体育館1階回廊部に、テーブルとイスを増設しました。既存のコミュニケーションスペースを拡充し、より快適に利用できる環境を整えました。



■安くて満足！学生食堂

学生食堂では、毎月替わるスペシャルランチや日替わりランチなど、安くてボリューム満点のメニューを提供しています。毎月のメニューはホームページの「NEWS」をご覧ください。



学生食堂 動画

■高等教育の修学支援制度

【申請受付 4月上旬、9月上旬】

「給付型奨学金（返済が不要）」と「授業料の免除（授業料の免除または減額）」の2つの支援があり、日本学生支援機構の推薦基準（学力・家計）により選考されます。本学においては、授業料等をいったん全額納入していただき、後日、減免相当額を還付します。

2025年4月より

高等教育修学支援制度の多子世帯（扶養人数が3人以上）支援が拡充されています。

世帯の年収額の基準が撤廃され、全額支援（上限あり）。

※日本学生支援機構のホームページの「進学資金シミュレーター」により、給付や貸与の額がどの程度になるか調べることができます。

■ファミリー奨学金制度

【申請受付 4月上旬～5月末】

本学卒業生の子弟および在学生の兄弟・姉妹の方が入学された場合、10万円を給付します

■教育ローン利子補給奨学金制度

【申請受付 12月上旬～1月中旬】

金融機関の教育（学資）ローンで授業料相当額の融資を受けている者で、審査により認められた場合、1年間に支払った利子相当額を本学が補給します。

■スクールバスの運行について

4月より、大学と蒲郡駅を結ぶスクールバスの運行ダイヤが変更となります。蒲郡駅でのバス停は、駅南口を出た「8番のりば」です。

運行ダイヤについては、ホームページでご確認ください。



スクールバス時刻表



■ものづくり工作センター

ものづくり工作センターでは、専任スタッフが卒業研究やサークル活動におけるモノづくりを支援し、学生のアイデアを具体的な成果へと結びつける環境を整えています。

写真は、情報メディア学科・手塚研究室所属の瀬川真司さんが研究の一環として制作した「竹スピーカー」です。本作品は、当センターの支援のもとで制作され、スマートフォンを載せるだけで音を自然に増幅する構造を持ち、素材・デザイン・デジタル表現の融合を追求したものです。このように手塚研究室では、映像・アニメ制作や3DCGを活用した実践的な研究に取り組んでいます。

当センターは、今後も地域・企業との連携を一層強化し、モノづくり文化のさらなる振興に貢献していきます。



■総合教育センター

総合教育センター基礎教育部門では、共通教育科目として1年次後期に開講している「地域振興プログラム」について、教育効果の向上を目的に見直しを行いました。従来の15回の講義では、地域課題の把握に必要な調査・ヒアリング、ならびにモックアップ製作までを十分に行うことが困難であるとの課題があったためです。

このため、2026年度からは本プログラムを通年型に再編し、1年次後期に「地域振興プログラム1」、2年次前期に「地域振興プログラム2」を開講します。

「地域振興プログラム1」では、地域課題の調査・分析とその成果の整理・発表を行い、「地域振興プログラム2」では、調査結果を踏まえたモックアップの製作および課題解決に向けた提案を蒲郡市および幸田町へ行きます。

本改編により、低学年段階からPBL（課題解決型学習）を志向する学生が、地域の課題を自ら調査・分析し、具体的な解決策として形にし、社会に向け提案するまでの一連の学修に取り組める体制を構築します。

■メディア基盤センター

メディア基盤センターでは、学内の情報システム環境を改善するため、計画的に設備更新をしています。2025年度は、7号館5階にあるマルチメディア実習室のコンピュータ45台を最新機種に入れ替えました。設置したコンピュータには環境復元ソフトウェアを導入し、共通で利用するアプリケーション環境が起動毎に最適な状態に復元されます。

近年、不正アクセスを目的としたID・パスワードを盗む行為が世界中で頻発しています。本学でもセキュリティリスク軽減のため、Google Workspaceへ多要素認証を必須にしました。多要素認証は、アカウント名とパスワードでの認証に加えて別の要素での認証を行うことで、なりすましなどの不正アクセスを軽減できる手法です。多要素認証の設定が完了しておらずログインできない場合は、メディア基盤センターへお問い合わせください。

■キャリアセンター

2月5日（木）～6日（金）の2日間にわたり、工学部2・3年生および修士1年生を対象とした学内合同企業研究会を開催しました。本研究会には、製造業を中心に幅広い業界から計104社の企業にご参加いただき、学生にとって多様な企業の人事担当者から直接話が聞ける貴重な機会となりました。当日は、すでに早期選考やインターンシップへの参加を経験している3年生に加え、将来を見据えて情報収集をはじめめる2年生の参加も多く見られました。会場は活気にあふれ、2年生にとっては、本格的な業界研究・企業研究のスタートとなりました。ここで得た情報をもとに、3年次の夏期休暇を活用したインターンシップなどへ参加し、実務理解を深めていくことが期待されます。

近年、学生の就職活動への動き出しが従来と比べて非常に早くなっています。早い段階から就職活動をすることにより、自己分析や業界研究に取り組むことができ、自身の希望や将来像も明確になります。また、エントリーシートの作成や面接においても、より具体的に説得力のある受け答えができるようになります。

一方、短期大学においては、12月初旬に自動車整備士を目指す1年生を対象とした学内企業説明会を本学体育館で開催しました。本説明会には、自動車販売会社をはじめ、自動車メーカーや部品メーカーなど、計171社の企業にご参加いただきました。

学生は各企業の仕事内容や求める人物像について理解を深めるとともに、職業観を養う良い機会となりました。2月上旬から企業見学や説明会に参加する学生が多く見られ、その結果、すでに複数の企業から内々定の報告が寄せられています。早期からのキャリア形成支援の成果が着実に表れています。

■図書館

■蒲郡市立図書館とコラボイベントを開催

図書館では、蒲郡市立図書館との連携により、11月14日（金）～12月5日（金）までの3週間、相互貸借イベントを実施しました。本イベントは、本学図書館にはない幅広いジャンルの図書に触れる機会を提供することを目的に開催されたもので、蒲郡市立図書館から約80冊の図書をお借りし、実施したものです。

会期中は多くの学生・教職員に利用され、小説や実用書、専門分野以外の書籍など、普段は手に取る機会の少ない本が並びました。利用者からは「新しい分野に興味を持つきっかけになった」「読書の幅が広がった」といった声も寄せられ、企画の意義がうかがえました。

今後も地域の図書館と連携し、学びと知的好奇心を広げる取り組みを進めていきます。

図書館の利用について

○ 開館 月曜日～金曜日 9:00～17:00

○ 図書・雑誌・楽譜などの館外貸出

【学生】 貸出冊数 計5冊 貸出期間 2週間

【一般※】 貸出冊数 計3冊 貸出期間 2週間

※蒲郡市または幸田町に在住、在学、在職者。楽譜は図書館内利用のみ。



○ 開館状況は図書館ホームページから（QRコード参照）

研究室訪問

— 情報メディア学科 国立研究室 —

我々の生活では、スマホやワイヤレスイヤホン、リモコン、ICカード、ETCなどの無線が多く使われております。今や無線はあらゆる場所で利用されています。しかし、上手く通信できない、通信の応答が遅い、バッテリーの減りが早いといった場面があります。これからの社会をより便利で快適にするには、無線通信の信頼性向上、低遅延性化、低消費電力や電力供給、そして低コスト化に取り組む必要があります。

また、電波は私たちの生活空間上を飛び交っているのですが、目に見えません。そのため、機器の設置や運用を最適化することが難しく、トラブルの原因を直接理解することが困難です。これについては、可視化が有効な手段になります。

さらに他の応用としてセンシング技術があります。無線信号の変化を利用して、人の動きや物体の存在を検知することが可能です。カメラと異なり直接見えないところを確認でき、映像を残さないでプライバシーへの配慮もできます。

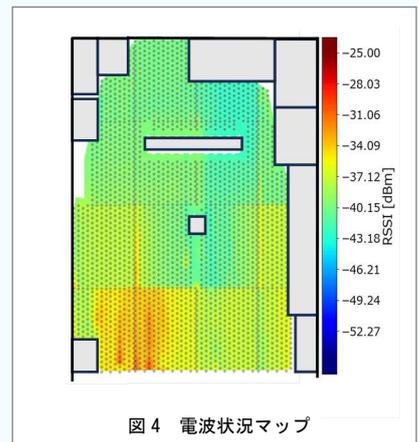
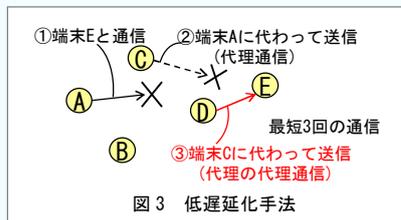
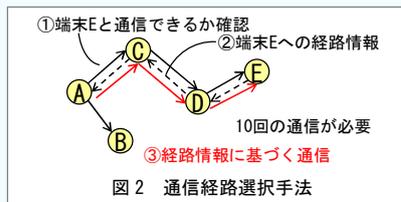
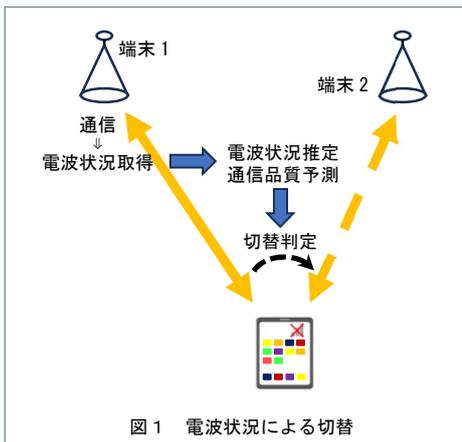
無線による通信は、古くはのろしやモールス信号のように遠くへ伝える技術として発展してきました。現在の無線技術は、高度なデジタル信号処理やソフトウェア技術が融合しながら発展していますが、依然として解決すべき課題が多い分野です。さらに、新たな応用分野も広がりつつあります。このように、無線技術はこれまで使われてこなかった分野を含めて、我々の生活をより豊かで便利にしていけることが期待されています。

国立研究室では、無線に関するさまざまな研究に取り組んでおり、ここではその一部を紹介します。

1) 高信頼・低遅延通信

現在の無線通信は、単に端末同士を接続する1対1の通信ではなく、多くの端末が相互に関係するネットワークを構築して通信の安定性や信頼性を確保します。ここで、どの端末に接続するかが通信の信頼性に大きく影響し、通信経路の選択が遅延時間に直接関係します。

高信頼化のために、電波状況にもとづいて接続端末を選択する方法があります。図1に示したイメージの通り、現在通信中端末との電波状況から、他の端末と接続した時の電波状況を推測し、通信品質の改善が期待できる場合に接続先を切り替えます。この時、電波状況は単なる電波の強さだけではなく位相の変化も含めて精密にとらえます。



Profile

国立 忠秀
教授・博士(情報科学)



[専門] 情報通信／情報ネットワーク
通信工学／電気電子工学
[経歴] 矢崎総業株式会社

これにより、端末の移動や周囲の人・物の配置変化による変動も考慮した接続先の選択が可能となります。

低遅延化のためには、通信経路を適切に選択する方法があります。図2に示した従来の通信経路選択手法は、ネットワーク全体の通信状況を把握して順路設定するので時間が掛かり過ぎてしまいます。そこで、図3のように端末同士がお互いに協調して通信することで、ネットワーク全体の状況把握を省略するとともに、通信失敗をカバーすることで、これまでよりも短い時間で目的の端末までデータを届けられるようにします。

2) 可視化

電波は人間の目でとらえられない電磁波であるため、その伝搬状態を直接把握することはできません。図4は電波環境をヒートマップで表した例です。このように電波の状況を把握するためには、専用の測定機が必要であることに加え、大量かつ詳細なデータ取得や専門の知識が必要になっています。

可視化を容易にするために、実際に通信で用いる端末を活用し、限られた少数の場所で取得したデータから全体の電波状況をマップ上に可視化する手法を検討しています。電波の強度や伝搬特性の変化を利用するとともに、空間上の人や物体の情報、端末からの距離をモデル化することで、高精度な推定が可能になります。これにより、廉価な設備で広範囲の電波環境を効率的に把握することが可能となり、通信が快適に行える場所の特定や、運用時の不具合発生の原因確認を容易にします。

本研究室では、紹介した技術以外にも電力関連やセンシングなどの技術にも取り組んでいます。また、研究活動を通して社会で活躍できる人材育成にも力を入れています。これらの活動に興味がいいたら、連絡をいただくか研究室へお越しください。

2026年度(前期)行事予定表(4月~9月)

※学内における諸事情などにより、予定を変更することがあります。

大学

月	行事	日程
4月	入学式	2日(木)
	オリエンテーション	3日(金)~8日(水)
	編入学者認定申請	6日(月)
	就職活動調査	7日(火)~8日(水)
	健康診断	7日(火)~8日(水)
	履修登録	7日(火)
	通学車両検査(1年を除く)	11日(土)
	学修奨学金授与式	17日(金)
	留学生を囲む集い	24日(金)
5月	工場見学(1年)	15日(金)
6月		
7月	定期試験	31日(金)~
8月	定期試験	~8日(土)
	夏期休業	9日(日)~
9月	オリエンテーション・履修登録	15日(火)~17日(木)

短期大学

月	行事	日程
4月	入学式	2日(木)
	健康診断	7日(火)~8日(水)
	オリエンテーション(1年)	3日(金)~7日(火)
	オリエンテーション(2年)	7日(火)
	就職活動調査①(2年)	7日(火)
	実習ガイダンス	8日(水)
	通学車両検査(1年を除く)	11日(土)
	学修奨学金授与式	17日(金)
	留学生を囲む集い	24日(金)
	5月	大学編入学 進学説明会
6月	就職活動調査②(2年)	12日(金)
7月	定期試験	23日(木)~30日(木)
8月	成績発表・選択科目履修登録	3日(月)
	夏期休業	9日(日)~
9月	オリエンテーション	10日(木)
	ビジネスマナー講演会(2年)	10日(木)
	就職活動調査③(2年)	10日(木)
	就職ガイダンス(1年)	11日(金)
	自動車メーカー講演会(1年)	14日(月)~16日(水)

大学院

月	行事	日程
4月	入学式	2日(木)
	オリエンテーション(1年)	2日(木)
	オリエンテーション(2年)	8日(水)
	履修登録	6日(月)
	健康診断	7日(火)~8日(水)
	就職活動調査	8日(水)
	通学車両検査	11日(土)
	留学生を囲む集い	24日(金)
5月	博士前期課程 履修・研究計画書提出	22日(金)
	博士後期課程 研究計画書提出	22日(金)
6月		
7月		
8月	夏期休業	9日(日)~
9月	オリエンテーション・履修登録	18日(金)